

No.173

坂東地域アグリ通信

令和元年11月20日

坂東地域農業改良普及センター 発行

Tel: 0297-34-2134 Fax: 0297-34-3291

HPはこちらへアクセス! >>>



「パソコンによる簿記記帳実践コース第5回講座」を開催しました

10月24日、普及センターにて「パソコンによる簿記記帳実践コース第5回講座」を開催し、農業者25名が参加しました。

今回は農業簿記ソフト開発会社から講師を招き、9月に発売されたばかりの消費税改正に対応した新ソフトの操作法について学習しました。

消費税の改正により、10月1日以降は取引を入力する際、その都度消費税率を自分で判断して選択することになります。新ソフトでは、決まった取引についてはあらかじめ消費税を設定できる等の便利な機能があり、また電子帳簿保存にも対応しています。講師への質問が飛び交う、熱気あふれる研修会となりました。

『経営管理研修会「パソコンによる簿記記帳実践コース」』は、普及センター主催で月1回程度開講していますが、長年簿記ソフトを活用している農業者でも「今後も講座に参加して、間違いのないよう記帳し、経営成績を次年度の経営に活かしたい」との声が多く聞かれました。

普及センターでは、経営管理の向上を目指す農業者を今後も継続的に支援していきます。



県西フローリストが「茨城フラワーマーケット」に出店しました



県西フローリストは、県西地域の若手花き生産者のグループで、「茨城を代表する花作り集団になる！」ことを目標に、技術研修会や市場との意見交換・販路拡大活動などを行っています。

10月26日、笠間芸術の森公園で開催された「茨城フラワーマーケット」に今回初めて出店し、シクラメンやオリーブ、多肉植物など約60アイテムを販売しました。

ブースには開会前から多くの来場者が訪れ、生産者から各品目の特徴や管理方法などを紹介しました。今回のイベントでは、接客を通して多くの来場者や他の出展者に各生産者自慢の商品をPRできたほか、他のブースで販売しているドライフラワーや装飾等の花きの見せ方や活用方法についても参考となるイベントになりました。

普及センターでは、今後も生産者・関係機関と一体になって、販路拡大やPRを支援していきます。



農業には若さがある

今回は古河市の濱野健司(はまのけんじ)さんをご紹介します。濱野さんは就農2年目で、「はまの農園」を経営し、紅ほっぺやとちおとめ等のイチゴの直売を行っています。

■ どうして就農しようと思ったのですか？

— 就農前は、公共施設のポニー牧場でインストラクターをしていました。そこでは障がいを持つ子供達と関わる機会が多く、彼らが長く勤められ、かつ地域に根差した雇用の場を設けたいと考えるようになりました。そこで、知人にアドバイスをもらいながら、イチゴ経営に取り組むことを決めました。

■ 今頑張っていることや心がけていることはありますか？

— 栽培管理です。暑いときはハウスの換気が必要ですが、風が抜ける日は乾燥し過ぎてしまうため、特に換気に試行錯誤しています。

■ 農業の魅力、大変なところはなんですか？

— 自分が育てた作物ができてくることは純粋に楽しく思います。また、直接買いに来てくださる方々と交流が持てることに喜びを感じますし、なにより自分で作ったものが美味しいと言われることが嬉しいです。大変なことは、例えば肥料のことなど多くの知識が要求されるので、知識を積み重ね、取捨選択しながら実践していくことに難しさを感じています。

■ これからの目標はなんですか？

— これからハウス棟数を増やして、規模を大きくしていきながら、障がい者の雇用に取り組んでいきたいです。また、イチゴを中心に他作物も栽培し、いずれは農場で馬を飼って観光農園のようにしたいと考えています。

■ 最後に一言お願いします。

— 農業は楽しいです。しかし、何事にも言えることですが、数年後のビジョンを立てながら、現実を見て取り組むことが必要だと感じています。自分から積極的に動いていくことが大事だと思います。



12月 土壌診断実施日のお知らせ

▶ 12月11日(水)

▶ 12月25日(水) を予定しております。

- ・ 個人の農家の方が対象です。
- ・ 受け付けは先着順となりますので、お早めにお持ちください。電話等での予約は行っておりません。
- ・ 1回の診断で50点までの分析となります。超えた場合には次の診断日となります。
- ・ 1人あたり5点以内の持ち込みでお願いします。

編集後記

今月号よりインタビュー記事が復活しました！取材をしている私自身、技術的なことも含めどんな経営を考えているのか等を知ることが出来、とても勉強になります。今後もより多くの生産者と関わり、私自身がどんな役割を果たすべきなのか、常に考えながら行動していきたいと思っております。(札)